

Monthly Report

2019年3月号

特集 平成30年中の交通事故 死者数について

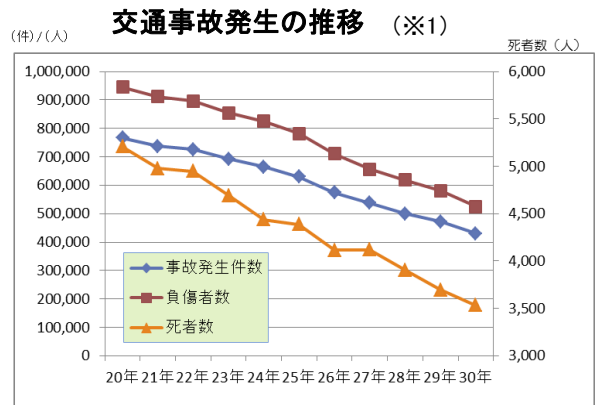
警察庁から、平成30年の交通事故発生状況及び死者数が公表されました。死者数は引き続き減少傾向にありますが、政府が推進する第10次交通安全基本計画の目標である「平成32年までに死者数2,500人以下」の達成は困難な状況になっています。今月号では、最新の統計情報をお知らせするとともに、死亡事故の分類結果や対策例についてご案内します。

1. 交通事故死者数と死亡事故類型について

(1) 死者数の減少

平成30年中の交通事故死者数は、**3,532人**で、昨年度より162人減少し、警察庁が発表を始めた昭和23年以降の統計で最少人数となりました。

しかし、今でも1日10名程が交通事故で命を落としているのが現実です。

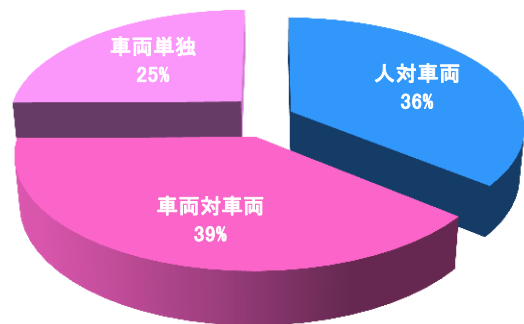


(2) 車両対車両の事故が多い

死亡事故で一番多い事故類型を、「人対車両」と思うドライバーが多いかもしれませんが、実は「車両対車両」がトップになっています。「車両単独」の死亡事故も含めると、車両搭乗中の事故が全体の64%を占めています。

※死亡事故類型別割合については、入手可能な直近の統計(平成29年)を使用しています。

死亡事故類型別割合 (※2)



※1: 警察庁「平成30年中の交通事故死者数について」より当社作成
<https://www.npa.go.jp/news/release/2019/20190104jiko.html> (2019.1.22閲覧)

※2: 警察庁「平成29年における交通死亡事故の特徴等について」より当社作成
<https://www.npa.go.jp/toukei/koutuu48/H29siboubunnseki.pdf> (2019.2.12閲覧)



2. 危険な交差点に注意

死亡事故の類型でトップの「車両対車両」を事故形態別にみると、「出会い頭の衝突」がトップになっています。そして、この「出会い頭の衝突」を更に、被害者(第2当事者)別にみていくと、車両の中でも自転車(軽車両)、オートバイ(二輪車)が多いことがうかがえます。

出会い頭の事故は、交差点で発生します。自転車やオートバイが飛び出してきそうな交差点はどこにあるのか、自宅や会社周辺、よく通る経路などを中心に危険地点を確認しておくことが、事故防止に有効です。そこで参考になるのが、各都道府県警察がホームページで公開している交通事故発生マップです。是非、交通事故発生マップも使い、危険地点を確認しておきましょう。

死亡事故の類型(車両対車両) (※3)

出会い頭 衝突 414	正面衝突 343	右左折時 215	追突 166	その他 126
-------------------	-------------	-------------	-----------	------------

※死亡事故類型別割合については、入手可能な直近の統計(平成29年)を使用しています。

※3: 警察庁 平成29年における交通死亡事故の特徴について
<https://www.npa.go.jp/toukei/koutuu48/H29siboubunnseki.pdf>

交通事故発生マップの例 (※4)



※4 警視庁「交通事故発生マップ」
[https://www2.wagmap.jp/jikomap/PositionSelect?mid=4&nm=%8ES%8EÌ\(2019.2.12閲覧\)](https://www2.wagmap.jp/jikomap/PositionSelect?mid=4&nm=%8ES%8EÌ(2019.2.12閲覧))

3. 出会い頭事故防止のために

以下の運転行動を実践しましょう。

- ◆裏道や生活道路はなるべく使わない。
- ◆一時停止は、必ず停止線で停止する。
- ◆優先道路であっても、交差点通過時は速度を落とす。
- ◆夜間は、積極的にハイビームを使用する。



▲自転車やオートバイが飛び出てくるかも!

■お問い合わせ先



SOMPO ホールディングス
 損害保険ジャパン日本興亜株式会社

〒160-8338 東京都新宿区西新宿1-26-1
 ホームページ <http://www.sjnk.co.jp>